
◎議案第49号の上程、説明、質疑、討論、採決

- 議長（藤井 要君） 日程第14、議案第49号 平成30年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計収入支出決算の認定についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

- 町長（長嶋精一君） 議案第49号 平成30年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計収入支出決算の認定についてでございます。

詳細は担当課長より説明申し上げます。

（企画観光課長 高橋良延君 説明）

- 議長（藤井 要君） 以上で提案理由の説明を終わります。

暫時休憩します。

（午後 2時50分）

-
- 議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午後 3時05分）

-
- 議長（藤井 要君） 提案理由の説明が終わっておりますので、これより質疑に入ります。
質疑を許します。

- 7番（高柳孝博君） 2点ほどお願いしたいと思います。1つは22ページ、他会計借入金明細書の中の償還最終期のところで平成43年になっている。こういう書き方でいいのか、令和にしないのか。

- 統括課長（高木和彦君） 令和が制定されたときに、もともとなっているものについては訂正しなくてもいいというようなことは確認しております。

- 7番（高柳孝博君） 11ページ、伊豆まつぎ荘事業報告のところなんですけど、対前年度比2393人の減であるということなんですけど、記録的な猛暑とか台風の影響、ガソリン価格の高騰等があったということになってるんですけど、これをもう少し分析ができないでしょうか。

いつも言っているんですけど、ルートごとに一回みてみたらどうか・・・ルートごとのデータが出るかわからないのですが、例えばインターネットで来る人、リピーターで来る人、それからエージェントを使って来る人、あるいは口コミで来る人とかルートがあると思うんで

す。そのあたりが少し分析できると何が※※※、台風の時にはなにが※※※※とか、もしかするとわかるかもしれない。そのあたりのデータ※※※※は出てるんでしょうか。

- 企画観光課長（高橋良延君） 総括で2393人、前年度より減という形でございます。当然我々の方、予約実態に基づきましてのデータ分析はいたしております。その中でどこが一番減っているかということは、前年と比べまして自社ネットからの申込み、いわゆる、まつざき荘のサイトからの申込みが一番減っています。全体の35パーセント・・宿泊の中の35パーセント、その自社ネットの。要は何が悪いか・・そのホームページの何か悪いのかなという形が・・分析しまして、今回ホームページの改良を行ったところであります。

要するに、ワンストップといったらおかしいですけれども、単純にまつざき荘に入れる形、そういった形でホームページを改良いたしました。

それで、4月の予約実績を見てみますと、このホームページからの予約が、昨年4月より約80人ほど増えました。それが必ずしも功を奏しているかということは、これからの分析ですけれども、少なくとも昨年より、同じ時期の自社ネットからの宿泊申し込みの数は増えているというようなことは申し上げたいと思います。

それから、もう一つ減っている大きなところは旅行者・・先ほどじゃらんとか楽天とか言いました。そのところが減っているんです。昨年はじゃらんの宿泊者については前年度比525人の減、いわゆる2393人の減にのうち525人はじゃらんの申込みでした。ですからそういったところについても、やはり宣伝の仕方が悪いのか・・そういったことも含めまして、そこは今後その旅行者のところを含めまして、魅力あるプランを作ってそこに売り込むとか、そういうことも含めてやっていきなないなということでございます。

- 7番（高柳孝博君） エージェントとかインターネットとかいうのは、多分、色んなルートごとに分けてみると、かなり多いんだと思います。多いということは当然、減り具合もパーセンテージでいけば増えてくるわけで、減ってくることは当然予想されるわけですけど、例えば、なぜじゃらんが減ってくるのか、その分析が必要じゃないかと思います。以前、聞いたときには、エージェントさんのマージンですかね・・そういったものが中々公営企業の中では上げることができないという話がありましたけど、そういったものに手を打っていないと中々上がっていかないのかなと思います。あと、口コミとか大きいと思いますが、最近はネットを使ってコミュニケーションを取っている人が多いものですから、そのあたり口コミが効いているのかなと思いますけど、そういう分析がまず出来るかどうかということが1点あって、そういったものに対してどうサービスしていったら落とさずに済むか・・台風

が来て落ちてしまったら・・・逆に台風が来て落ちたんで、次は次の策を打って落ちた分を上げなきゃならない。本来、目的が100あったら台風が来て80になったら、あと20積まなきゃいけない。そうするとその時に、やはり尺を作っておかなければならないので、そのあたり分析ができてないと、次、なぜだろうっていったときに、なぜだろうっていったところにこれだっというのがわかればその対策を打てばいいわけですので、そのあたりの考え方がでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 先ほど私は、予約実態のところからの分析ということを申し上げました。あとはアンケートとか、そういったところもやっております。来たお客様がどうなのかということも含めて・・・新たな顧客を取り入れるのは色々なプランを仕立てて・・・広報媒体に載せてというような形でやっておりますけど、もう一つは来たお客様がどういふふうな形で思っているか、また来たいのかというようなことを含めて、そういったアンケートと取って分析もしておりますので、それは両方合わせてやってまいりたいと思います。

○7番（高柳孝博君） 実はサービス業において・・・私はサービス業ではないので経験はないわけですが、おもてなしでずっと日本一になっている・・・石川県の方にあるわけですが、そういったところのおもてなしのところでは、お客さんが来たときに感動したということが・・・お客さんが思った以上のことがあったときに感動するわけですね。そうするとそのためにはかなりのデータベースを持っておりまして、お客様がいつ来たかということをしつかりとデータとして残しておいて、次に来たときにお客さんが・・・またいらっしゃってくださったんですねって言われて・・・何か驚いて感動したということもありました。そういうことを考えてみると、かなりのお客さんのニーズ、何でお客さんが来ているか、そこら辺のニーズ掴みっていうのも何らかの方法で掴んでですね、若い人がきているのか、老人がきているのか、それぞれ目的が違うと思いますので、そのあたりの分析をしつかりやって、もうちょっとこう台風が来たからどうこう・・・台風がきたら・・・当然台風が来たりすれば交通の便が悪くなって実際には通れないし、キャンセルも出るでしょうから、でも、そういったものときに、次の※※※※をするときに、あるいは台風が来て何が一番困るか、交通がダメなのか、バスが止まったら・・・それでも当然来ないからダメなのか、そういった分析というのをもう少しやられたらいかがかと思うんですが、いかがでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 今回台風が来たから、それが原因だとは決して言ってません。それは一つの事象であって、色々なことが積み重なって2393人になったんだろうなと思っています。

それでこの中の分析をいたしますと、リピーターということを高柳議員は申し上げましたけども、リピーターについては極端には減っておりません。30年度はリピーター率が54.1パーセントでありましたけども、2393人お客様が減りましたけれども、リピーターの数については、その中の約600人くらいですね。この方が前年度のリピーターの数より減りましたけれども、減った中では大きなものを占めるものではありません。ですから、来ていただいた方には、本当に来ていただいているということで認識はしております。

そういった中でどんなことをやっているかという、まつぎ荘は友の会という会員を持っております。約1000人おりますけれども、そういった方に定期的にDMなんかお知らせを送ったりですね。・まつぎ荘に来てください・そういったことでお客様の確保を図っているわけでありまして、極力そういったリピーターも大事にしながら、新規の開拓もやっていきたいなということで思っております。

○7番（高柳孝博君） 減ってしまった要因だけではなくてですね、今みたいになぜリピーターが来てくれるのか、まつぎ荘がいいと思って来ていただけるのか、これを分析することはすごく大事だと思います。次の策のすごいヒントになると思いますので。・料理なのか、温泉なのか、それとも部屋なのか、景色なのか色んな分析があると思いますので、是非そのあたりのことを分析されるといいと思います。そのあたりの考え方はいかがでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） まさに、そうやって来ていただいた方、そういった方に対して色々な意見を聞く。・それもヒントになろうかと思しますので、そういったことは地道にやりながら頑張ってます。

○5番（深澤 守君） まず最初に5月の速報値を教えてくださいませんか。それと前年比を教えてくださいませんか。

○企画観光課長（高橋良延君） 5月については120名くらいの減という形で伺っております。

○5番（深澤 守君） 5月については120名減ですね。これゴールデンウィークにも入っておりますし、天气的にも悪くないわけで、順調に行けば宿泊の分だけ。・休日の日数分だけ増でなければおかしいはずなんですけど、この120名減となった分析というものはできているでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 5月初旬の連休時については前年を伸ばすことが出来ましたが、連休あと。・これについては反動といいますか宿泊が伸びず、やはりそのところが非常に弱かったかなというようなところでございます。最終的に連休明けの宿泊者の伸びがなかったというようなことでございます。

○5番（深澤 守君） 7月に料金を1000円上げたという・・・これ、黙っていても大体2000万円くらいの増収にはなったわけですね、まつぎ荘は・・・単純計算で。

逆に人件費が200万円減、食事材料費を500万円減・・・要は経費を700万円減ということになると、大体2700万円くらいの余剰があったわけです。それにも関わらず、昨年度の収益が100万円余りの黒字。今回の件は400万円くらいの赤字ということで、決算の差額にしたら500万円。

しかし、赤字を出すということ、町長はずっと罪悪みたいなことを話しをしていて、前年度やった結果100万円が黒字になったのに、400万円の赤字を出したということは、これは台風が来たとか、熱波があったとかというそういう話しじゃなくて、明らかに経営の失敗であるということ、そこを認めて、そこから原因を追究していく方が再生の早道ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 最終的な数字の評価としては400万円マイナスということでありましたけども、我々は黒字を出すために、お客さんを伸ばすためにそれは一生懸命努力しております。そういった中で、結果的にはこういう数字になったと・・・それは受け止めたいと思いますが、決して経営をないがしろにしてとかそういったことではございませんので、それはまずご理解ください。

それで料金改定が7月からということ、先ほど申しましたけども、これが2393人に影響したということでは全くないということでは思っております。全体として・・・収入としては減っておりますけれども、料金改定後の収入効果・・・これを改定をしなかった場合と比較すると約1000万円の効果があったものでございます。

つまり、料金改定をしなかった場合、もし宿泊利用者がこういったことで同じであったならばと仮定すると、1300万円の赤字という・・・ここが数字が出てきたところでございます。そういったことを考えると、それは当然、宿泊利用者を伸ばすことによって・・・それは我々もやっております。ただ一方で、財務状況といいますか、そういったことを見ながらやっておりますので、そこは料金改定が必ずしも・・・じゃあこの2300人の減につながったということでは思っておりませんので、そここのところはご理解ください。

○5番（深澤 守君） それでは、前日説明を受けました町営観光施設の入館状況の割合が入っております。まつぎ荘以外、およそ前年度比100パーセントちょいくらい伸びております。しかし、まつぎ荘については89.5パーセント。10パーセント以上も違う数字が出ております。

先ほど企画観光課長が説明した台風だの、そのほか外部要因・・・それから前に説明を受けたときには南伊豆地区では12パーセント減・・・全体の客入り数が減っているという説明であるならば、全体的な伊豆まつぎ荘、重文岩科学校、中瀬邸、民芸館・・・この数字にも表れてくるはずですが。しかし、松崎町自体がこれだけの数字があるということは、これはやっぱりまつぎ荘の外部要因以外の原因があると思います。ですから、そこのところを客観的に・・・今までも言っていることではなく、例えば料理をもっと変えるとかそういうような・・・本当に何が原因かというのを突き止めてやらなければ、この減少状況というのは、どんどんどんどん悪くなっていくと思うので・・・、先ほどじゃらの動向が悪いという話しはしましたけど、じゃらの口コミは良い方にも書くけど、悪い方にも書く。その影響もあるってことも考えられますが、その辺を・・・お客様の動向とか何が原因とかっていうのを本当に追及するってことがあるのかお伺いいたします。

○企画観光課長（高橋良延君） 今、深澤議員が言いました89.5パーセント減というのは、4月においては、まつぎ荘は34人減ということですので、ほぼ前年並みということであったと思いますので、1割以上落ちているということはございません。それははっきりと申し上げます。

それから外部要因だけじゃなくて、例えば台風とかそういうことじゃなくて内部にもという意見だと思います。たしかにそれは・・・我々も食事のアンケートとかそういったことも常にやっています。そういったことで、お客様からいただいたそういった意見の中で、改善できるものは改善するような形で、今現在も努めておりますので、そこは全くやっていないということじゃなくて、常に食事についても多少見直しを・・・例えば春、秋とか、夏の間の夏季期間とかそういったことの・・・食事の内容の見直しはしておりますので、是非そこはご理解ください。

○5番（深澤 守君） いろいろ批判してもしょうがないので、一つ私の・・・聞いてくれるか聞いてくれないかは別としまして、一つ提案してみたいと思うんですけど、私は昨日、ある人と食事をしましたら、季節のもの、松崎のものを取り入れたすごく暖かみのある素晴らしい料理をいただきました。そのプレートが1000円でした。

町長はあちこちに行って、人の話しだとか現場の話し、色々な話しを聞いてくるとおっしゃいました。是非、そういう人たちのものを見ていただいて、客観的に自分たちの料理と比べていただいて、しっかり取り入れていただきたいと思います。その人が作ってくれた料理は本当に簡単な料理ですが、地元のものを使っていたりとか本当に暖かいものでした。そ

ういうものを本来は求めていると思います。

松崎に来てイカフライを食べたい、寄せ鍋を食べたい、うどんすきを食べたい・・・決していないはずです。そのところをもっと・・・自分たちの出している料理を客観的に見ていただいて、他のところと比べていただいて、それが良かったら積極的に取り入れていただきたいと思います。

そうすればきっと、松崎は観光も素晴らしいところです。みんながいいと言ってくれてます。その中のまつぎ荘の役割というものは重要であると思いますので、是非、その点をやっていただきたいと思います。

○統括課長（高木和彦君） 深澤議員には最近、まつぎ荘のことで大分ご批判がありましたけれども、前向きな意見をいただいて本当にありがたいと思います。町長もそのような努力をしております・・・町長は実家といいますか・・・民宿を経営しているということもあるものですから、調理師のところで色々な打合せをしております。そのような努力をしていることもご理解いただきたいと思います。

○企画観光課長（高橋良延君） 食事についてのご意見、伺いました。食事については、我々が満足するということがじゃなくて、お客様にいかに満足してもらえるか、そういったスタンスであると思いますので、是非それを実現してまいります。

○6番（渡辺文彦君） ちょっとお伺いしたいところがあるんですけど、決算は出た数字だから仕方がない点もあるんですけど、今、ディステーションキャンペーンというのを4月から6月までやっている時期なんですよ。この効果は、僕は何も無いような気がしているんですけども、その辺の印象、また富士山が世界遺産に認定されたってこともあっても、何か伊豆へ来ているお客さんが増えているって印象を受けていないんですけど、その辺の分析をどのように捉えているのか、一つお伺いしたいんですが。

○企画観光課長（高橋良延君） DCの関係については、今、4月から6月までが本番という形でやっています。DCについてはJR6社、それと自治体がということで、主には鉄道関係のところの主になってくるわけですけども、当然伊豆にも、そのDCの効果といいますと、やはり伊豆急の方で直通の電車・・・ちょっと高めの伊豆クレイルっていいですかね、その電車が毎日乗って、そのお客さんが西伊豆の方に回って来るとか・・・といったツアーもございまして。そういったこともやっていると、あるいは大きいところでは、そういったJRのところにガイドブックといいますか、ポスターも含めて全て掲示をしている。例えばJR横浜駅のところへ行きますと・・・私も行きましたけど、横6メートルの雲見海岸から見た大

きなポスター、松崎のポスターが掲示してございます。そこを毎日行き交っている人は必ず見てるかなと思いますけど、そういったこともDCのとき・・・これがなければ出来なかったこととございますので、実際そういったPRの面、そして電車とかそういったところを使ったツアー、そういったところも伊豆の方には来てますので、そういった効果は着実にあるのかなということを感じてます。

○6番（渡辺文彦君） 課長は今、それなりの宣伝効果はあったというふうに理解しているみたいだけど、僕もゼロではないと思うんだけどね。

去年、このDCが始まる前に・・・プレの時に、来年はDCがあるから沢山お客が来るような楽しいな発言が結構あったわけですよ。それが現実的にはなっていないような気がするわけね。なんでそうなっているのかの分析を聞きたいわけだけでも、僕は東伊豆もそんなに増えていないような気がするんだけど・・・5月の連休は別ですよ。それ以外、先ほど言ったように5月の連休明けの反動が、どこも大きいというのを伺っているものでね、本当にディステーションキャンペーンの効果が出ているのかどうか、取り組み自身にも問題があったのかどうか、その辺が自分でも分析ができないんだけど、どういうふうに捉えているかね。

○企画観光課長（高橋良延君） このDCの4～6月の実績というのはどこも出ますから、それが終わりましたら実際にどれ位の入込みがあったかというのは、公表させていただきたいなと思ってますけれども、実際やるに当たって松崎町においても、色々な商品企画をDCのところに提案をしました。そういった中で一つは、ジオクルーズという・・・松崎港からジオクルーズ・・・いわゆるクルーズ船に乗ってというのが・・・これは商品化されました。それで6月まで近畿ツアーのクラブツーリズムでツアーを組んでます。そういったことも実績としてありますので、決してDCの効果は何も無いということじゃなくて、そのところは色々な媒体を通して松崎町にこういった魅力があるよ、施設があるよということは宣伝いたしておりますので、よろしく願いいたします。

○6番（渡辺文彦君） 僕はDCが町の役に立たなかったってことじゃなくてね、思った以上に効果が出ていなかったんじゃないかと、その辺に対して取り組みがちょっと拙かったっていか努力不足の面があったんじゃないかと、それを言いたいわけであってね、そういうことは恐らくこれからやっけて行くだらう営業活動の中にもそれを反映していかないと、ただどこか行ってパンフレットを置いてきましてただけではね、恐らくお客さんは増えてこないと思うんだよね。

その辺で一つ一つの機会を分析していただいて、自分らができる対応策・・・本当にお客さんに来てもらう方向性をちゃんと見定めていかなければ、なかなか集客は難しいのかなって思う、本当に。お客さんの価値観というのは多様化しているし、時間的にみれば2時間の範囲でかなり遠くまで行っちゃうわけですよね、伊豆へ来なくても。それを考えると、どうしてもこちらに来ていただくには、こちらに魅力がなくちゃいけないわけだから、その辺のアピールを積極的にしていただかないと、なかなか難しいのかなと思うんです。

今度、県が主体になってフェリーが来るわけだけれども、それに伴って山梨から清水までの道路も、近々開通するって話しなんだけれども、僕は昔、長野にいたことがあって、長野の方って海が無いからすごく海に憧れるんですよね。道路が開通すれば、山梨、長野方面の営業を強化した方がいいのかな。それをフェリーを利用してもらって、フェリーの利用も高めるって意味でね。その辺も協力して山梨、長野方面への強化していただいた方が、今後の集客につながるのかなと思いますけど、その辺考えていただければと思います。

○町長（長嶋精一君） 私はディスティネーションキャンペーンがあるからお客さんを運んでくれるというふうに、安易に全く考えていなかったんですよ。というのは、2000円年に伊豆若返る運動というのをやましてね、結構大々的にやって、県とJRが組んでやって、終わったらパッと終わってしまったんですよね。その経験があるものですから、これがあるからお客様が来るぞというふうには安易に考えなかったんですけど、如何にしても準備期間が短かったような感じがいたします。それが反省材料でね。基本的には国がやってくれる、県がやってくれる、JRがやってくれるから安心だっというふうな考えは持っておりません。やっぱり我々が・・・今、渡辺議員が話されたように、いかに地域の魅力を高めて、来ていただくようなことをやって行かなきゃまずいなと思っております。

ですから、それに向かって・・・まだ町長で1年半くらいですか・・・INGでねやっている最中です。今後は大いに期待していただきたいなと思います。色んな・・・高柳議員からも提案いただいたり色んなことを分析して、違う角度から分析して対応を図っていきたいなと、こういうふうに考えます。

○8番（土屋清武君） 11ページ、総括のところ、食事材料比率の見直しを図るなど改善を行ってきました・・・こういうことがありますけれど、今まではどれだけの材料比率で、今年度は最終的に・・・先ほど課長がから37パーセントとか聞いたけど、前年がどれだけで、今年度がどれだけか教えていただきたいと思います。

人件費の方で3.1パーセント減ということでしたけど、まつぎき荘はサービス業であります

ので、私もあそこで営業支配人、総支配人をトータルでは5年近くまで勤めていましたけど、サービス業であるから徹底してお客さんにサービスをしたと自負しております。おかげさんで当時は日本一にらせていただきましたけど・・・ですからこういうことについて、お客さんからどういうふうな意見が出たのか、先ほどお客さんからのアンケートも取っているということを聞きましたので、是非、我々議会にも・・・こういう決算なので審議しなければならないから、是非、そういうアンケートを我々にも見せていただきたいと思うわけです。これは議長、お願いしたいと思います。

総括の最後のところで、食事メニューやサービスの改善に努めますと・・・こういうことになっておりますので、今後は良い数字が出てくるのではないかと予想するわけです。統括課長、税務の3月頃の申告時期があるわけですけど、白色申告の営業で、昔は・・・私の知っている時点では、大体43～44パーセント近くまで・・・税務署の方で大体その位の数字が妥当だろうと・・・これは税務署の方で調査した結果で昔はあったんですよ。そういうようなことの数字がね、ある程度税務の方で申告を受け付けますから、ある程度握っていると思います。その辺をまた教えていただきたいなと思います。今日でなく後でいいから・・・。

- 企画観光課長（高橋良延君）　まずは平成30年度の食事材料比率について申し上げます。36.49パーセントでございます。平成29年度は40.05パーセントでございました。従いまして、前年度比3.56パーセント減ということでございます。

アンケートについては、議会・・・ここに出すのかどうかは、またご相談させていただきたいと思います。あと、宿泊施設整備運営委員会とか、そういったところもございますので、そういったところを含めて検討させていただきたいと思います。

- 2番（鈴木茂孝君）　食事メニューの改善ですけども、私も農業をやっております、食事比率ですけども、例えば農業をやっておりますとB品といわれるものが出てきます。正規の金額で売れないものを安く出せるというのがあります。

まつぎき荘の朝食バイキングの場合に、グレープフルーツであったりオレンジが・・・私が行きますとよく出てるんですけども、松崎にはたくさん柑橘類がございます。その中でグレープフルーツというのは海外の物ですから、そういうものが出てくるのはどうかなと思いますし、来られるお客様もやはり松崎の果物が食べたいということで、例えば松崎でしたら、ハルミ、ハルカ、ポンカン、栄久ポンカンもありますし、そういうフルーツを並べて、松崎にはこんなフルーツがありますというようなものをやるとか、以前、弁天鍋というのがございまして、それをポスターにしたりしてお客様がいらっしゃるということがあった時代があ

と思うんですけども、そのように料理を変えますというふうにおっしゃいましたが、例えば何か一つ、これが松崎のものです・・例えばアサイミートさんが出している豚肉に桜葉を乗けたやつがありますよね、ああいうものをちょっと改良して、これが松崎のものです・・どーんって出すとそれを食べにいらっしゃる。テレビでするときに、これをピックアップして出すと、じゃあ来ようか・・来るということで、全体的に料理をいじるのはなかなか大変なので、何か一つ・・これが松崎だってものがあると、お客様はそれが印象に残ってまた来よう、美味しかったからあの人も連れて来ようというふうになると思うんですね。ですからその辺、ピンポイントでやっていくといいかなというふうには思います。

質問ですけども13ページです。業務量のところですけども、団体様が4月から10月、12月を除いてほぼゼロという状態なんですけれども、20ページの広告宣伝費です。この営業企画等で203万8000円と出てるわけですけども、営業に200万円かけていて、団体の方がゼロというのは、ちょっと対費用効果としてどうなのかなと思うんですけども、その辺いかがでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 20ページの広告宣伝費の営業企画の200万円の内容につきましては、そういった営業活動に行ったとかということじゃなくて、例えばお客さんが来たときに平日無料サービスをしましよとか、そういった企画がございます。そういったものに対しての費用をここで落としているということがございますので、団体のための営業活動に行ったとか、そういったことの費用ということではございません。そこはご理解ください。来たお客様にいかにサービスしていくか、それでお客様に来てもらうと・・平日サービスがありますよという形でやっております。

○2番（鈴木茂孝君） わかりました。それにしても団体がゼロというには非常に寂しいなど思うので、きちんと営業をやっているならばバスも来ようかなというふうになると思ひまして、私それがびっくりしました。

19ページの重油ですけども、重油は何に主に使われてますか。

○企画観光課長（高橋良延君） これはお風呂の関係の重油でございます。

○2番（鈴木茂孝君） お風呂を温めるということですか。お風呂はあれですね、下で水を通した管でやるくらい、冷ましている状態ですけども、それでも重油で温める必要はありますか。

○企画観光課長（高橋良延君） その関係の重油で・・使うものでございます。

○2番（鈴木茂孝君） 水で冷ますのを止めて、何か上手くできる方法があれば、これはかな

りの金額なので、その辺ちょっと削減できないかと思っています。

あと最後ですけれども22ページです。他会計からの借入金ですけれども、利率が0.1パーセント、0.3パーセント、0.3パーセントとなっておりますが、今ですな郵便局などで利率なんか0.01パーセントとか非常に低い利率となっております。これに借り換えとか、何かもう少し低くするような工夫というのがあればよろしいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 22ページ、利率の関係でございます。この利率については、5年毎に見直しということで・・・協定といいますか、契約の中にございまして、常に・・・この2番目のところですね、平成26年8月24日に借入れたもの・・・これについては本年の9月から0.3パーセントから0.1パーセントに引下げをいたします。そういった形で、近況の利率をみながら改定をいたしております。

○6番（渡辺文彦議員） 宿泊のお客の件に関してね、今、インバウンドということを中心に言われるわけだけれども、宿舎の外人の方の利用率を確認したいのと、その辺に対する営業の取り組みはどのようにされているのか、それをお伺いしたいんですけど。

○企画観光課長（高橋良延君） まつぎき荘の外国人の宿泊については、ちょっと今、何人という明確な・・・外国人だと昨年度は26人の宿泊でした。ほとんど外国人の宿泊はないという状況でございます。ホームページのサイトも外国語対応とか、そういうような形で行っておりますので、受入れのところはありますけれども、いわゆる広報をする、PRをする・・・そういったところには中々いけていないのかなということで感じております。

○議長（藤井 要君） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 異議なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(藤井 要君) 賛成討論なしと認めます。

○議長(藤井 要君) これをもって討論を終了します。

これより議案第49号 平成30年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出
決算の認定についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の諸君の挙手を求めます。

(挙手全員)

○議長(藤井 要君) 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり認定されました。
